

道化師の歌が聞こえる

【登場人物】

門番

道化

女

軍人

管理人

S 1 一日前・正門

銃声

女が死んでいる。

道化、座り込んだまま、うつむいている。

道化、歌い始める。

道化

ハッピーバースデー…トウ…ユー…。

門番、それを見ている。

門番

俺たちは…長い、長い旅をしてきた。気の遠くなるような旅だった。行くあてのない自由は、時に鎖に縛られた牢獄よりも残酷だ。処刑台に引き出され、首に枷をはめられ、ギロチンにかけられようと、人は最後まで自由を叫ぶことができず。だが戒めを解かれた自由の荒野では、どれほど叫ぼうとも、その声を聞くものはだれもない。俺たちは…そんな荒野を彷徨い続けていた。

道化の歌が止む。

道化は泣いている。

S 2 回想・二人の家

門番

どうしたんだ。

道化

歌ってるんだ。

門番

なにを。

道化 誕生日の歌。

門番 ……。

道化 姉ちゃんに歌ってあげたくて。

門番 ……。

道化 ケーキを買おうよ。小さく切ってあるのじゃなくてさ、丸のまんまのでっかいやつ。みんなで誕生日の歌を歌って、ろうそくを消すんだ。みんながワツて拍手して、それからおいしいものをいっぱい食べて…俺、何かやろうかな。ほら、演し物がさ、何かあった方が楽しいし、姉ちゃんも喜んでくれると思うんだ。パーティだよ、そうだ、パーティだ。誕生日パーティをするんだ、みんなで。

勢い込んで話す道化の言葉を、門番は遮る。

門番 明日は、姉ちゃんの誕生日だもんな。

道化 ああ、そうさ。

間

門番 いつか帰ろう。

道化 いつか帰ろう。

門番 あの懐かしいふるさとへ。

道化 あの懐かしいふるさとへ。

門番 見えない鎖にしばられた、この世界を飛び出して、自由に生きるために。

道化 そうだ、俺たちは自由だ。どこへ行ってもいい。なにをしたっていい。俺たちには、無限の未来がある。誰も知らない広い世界で、だれも見たことのないものを見て、だれもやったことのないことをやるんだ。明日は、

門番 明日は、

道化 きつといい日だ。

門番

木槌の音。

住人1 これより、四三一号への審理を開始する。

S3 裁判所、及び、管理人室

裁判所。

住人たちの前に引き出されている道化の姿。

同時に管理人室で向き合う、管理人と門番の姿がある。

管理人 それじゃ、話を聞かせてもらえるかな。君のお兄さんのことを。

住人2 君は被害者の女性、百三十四号を殺害し、

住人3 許可なく門を開け、逃亡を企てたとあるが、間違いないか。

道化 ……。

住人4 黙っていては分からない。

住人5 反論があるならはっきり言いなさい。

管理人 我々は真実を解明したいと思っている。もし本当の犯人がいるなら、捕まえなければならぬ。お兄さんは本当に

管理人・住人たち 彼女を、殺したのか。

道化 ……。

住人6 この町では、殺人は極刑と決まっている。

住人7 このまま君が何も言わなければ、君は第一級殺人罪で死刑となる。

管理人 話してくれればいい。ありのままを。君たちの身に起こったことのすべてを。

門番 ……。

管理人 話したくないなら別にいいが、そうになったらお兄さんは決して助からないよ。この町にもう、君の味方はいないんだから。

門番 ……あんたは信用していいんですね。

管理人 私は常に、中立だよ。

問

門番 ……分かりました。

住人8 それでは、

住人たち 休廷します。

管理人 君たち兄弟がこの町に来たのは、ちょうど一ヶ月前だったね。あの日も君はそこに座っていた。その日のことから始めようか。

S5 一ヶ月前・管理人室

軍人 移住希望者を連れてきました。

軍人、去る。

管理人 ようこそ、楽園へ。

門番 え？

管理人 疲れただろ？ なにか飲むかい？お茶？お水？コーヒー？それとも甘いものがいいかな？私は甘いものに目がなくてね。ちょうどこれからお茶にしようと思つてたところなんだ。とてもおいしいケーキがあるんだけど、よかつたらいいしょに、どう？

門番 あ、いや、僕は…。

管理人 いらぬ？あ、そう。甘いものは嫌いだったかな。この町一番のパティシエが作ったスペシャリテなんだ。ほんとにいらぬ？

門番 あ…はい。

管理人 よかった…。

門番 え？

管理人 一個しかなかったからね。

門番 はあ。

管理人 さて…じゃ、この町でのルールを説明しようかな。

門番 お願いします。

管理人 起立！

門番、慌てて席から立つ。

管理人 一つ！

門番 一つ。

管理人 人に迷惑をかけること。

門番 人に迷惑をかけること。

管理人 特に暴力！

その言葉が出た途端、管理人は倒れる。

門番 あの、大丈夫ですか？

管理人 僕はこの暴力というヤツが一番嫌いだね。考えただけで貧血を起こして倒れそうになるんだよ。

門番 はあ。

管理人 いいかい？暴力はなにも生み出さない。私たちは常に、話し合いによる解決を求めている。もし暴力行為が見つかった時には、すぐに出て行ってもらってからそのつもりで。

門番 分かりました。

管理人 一つ！

門番 一つ！

管理人 許可なく町の外には出ないこと。

門番 許可なく町の外には出ないこと。

管理人 外…！

管理人は、また倒れる。

門番 大丈夫ですか！

管理人 すまないね。私もここに来るまではいろいろとあってね。外のことを考えると、つついそのトラウマが…ああっ！

門番 しっかりしてください！

管理人、駆け寄った門番の手を握る。

管理人 優しいね、君は。

門番 え…。

管理人は、またすぐ何事もなかったかのように立ち上がる。

管理人 いいかな。町は壁で囲まれていて、人の出入りができるのは正門だけだ。これは

町の治安を守るためだと理解して欲しい。…以上、それだけだ。

門番 それだけ。

管理人 そう、それだけ。あとはなにをしても構わない。

門番 なにをしても。

管理人 なにをしても。個人の自由は、最大限に保証されている。…質問は？

門番 ……。

管理人 大丈夫かな？聞きたいことがあったら、今のうちになんでも聞いておいてくれたまえ。

門番 いえ、ありません。

管理人 けっこう。

軍人、出て来て、門番に制服を渡す。

管理人 ではこれが、君たちの制服と、管理番号だ。

門番 管理番号？

管理人 住人一人一人に割り当てられる番号だ。この町では、名前の代わりに極力この管理番号を使ってほしい。名前を呼ばれることを嫌う住人も多い。名前は知らなくてもいい余計な情報を相手に与えてしまう。…そうだろう？

門番 ……。

管理人 みんなが仲良く暮らすために必要な措置だ。分かってくれるね。

門番 はい。

管理人 それとこの用紙に、一日の模範的なスケジュールが書いてある。君の生活を豊かにしてくれること間違いなしだ。試してみるといい。

門番 ありがとうございます。

管理人 君たちには…そうだな、町の入り口を見張る門番をやってもらおう。なに、難しい仕事じゃない。ただ、許可なく出入りするものがないかどうか、見張るだけの仕事だ。何かあったら、直ちに私に報告すること。

門番 分かりました。

管理人 分からないことがあったら、彼に聞くといい。彼は百三十三号…みんなからは軍人と呼ばれている。

門番 軍人。

管理人 それっぽいだろ？起こらせると怖いから気をつけてね。

門番 …あの。

管理人 はい。

それだけで、暮らしは保証される。そうですね。

管理人 私たちの指示した仕事をきちんとこなしてくれさえすれば…そう、君たちが生活に困ることはないし約束しよう。いや、それだけじゃない。君の働き次第では、君はここで、何にだってなれるんだよ。

門番 なんにでも？

管理人 そう。君にだって、夢…あるだろう？

門番 …はい。

管理人 ずっとやりたいと願ってたことが。

門番 はい、あります。

管理人 叶えられるよ、ここでならね。

門番 ……。

管理人 では改めて…お帰りなさい。

門番 え？

管理人 この町への移住を心から歓迎します。ようこそ、「楽園」へ。

S 6 二週間前・正門

男が門を監視している。

道化、ボールで遊んでいる。

軍人、銃の手入れをしている。

間

門番 …だれも、来ませんね。

間

門番 今日も、誰も…。

軍人 来てほしいのか。

門番 いえ、別にそういうわけでは。

軍人 来てほしいんだろ。でないと、仕事したことにならないもんな。

門番 ……。

軍人 まあ、町になじむまでのつなぎと思え。

道化 (遊びながら) やった！

門番は、道化を睨みつける。

気まずい間。

門番 あの…。
軍人 何だ。
門番 軍人さんは何を。その…仕事は…。
軍人 ん？

軍人、銃を向ける。

門番 なんでもありません！
軍人 心配すんな。弾は入ってねえよ。
門番 はあ…。
軍人 俺は軍人なんて呼ばれてるが、ここは軍隊じゃねえし、俺も軍人じゃねえ。言うなりや町の…おまわりさんだ。
門番 おまわりさん。
軍人 まあ、たまに見回る以外は、同じヒマな仕事だ。
道化 あ…！

道化のボールが軍人に当たる。

門番 すいません…！

門番は道化を隅に連れて行く。

門番 おい…おい…。
道化 ん？
門番 仕事しろよ。
道化 してるよ。
門番 してねえだろ。
道化 してるよ。ほら。

道化、遊ぶ。

門番 それは仕事じゃねえだろ。俺たちの仕事はな、門番だろ、も、ん、ば、ん。
門番？
道化 そうだ。ここを勝手に出入りするやつがないかどうか、見張るのが仕事だ。
道化 それならやってるよ。
門番 どこがだよ。
道化 俺、目はいいんだ。出入りする奴はいない。近くに人もいない。だから問題ない。
軍人 そりゃそうだ。

軍人、笑う。

門番 あのかな…。そりや見張りはできてるかもしれねえけどな、それじゃ働いてるよう
に見えないだろ？

道化 だからなんだよ？

門番 サボってると思われるじゃないか。俺たちの夢がかかっているんだぞ。

道化 大丈夫だよ。悪い奴がきたら、ちゃんと入れないようにするよ。

門番 そういうことじゃなくてな…。

道化 だいたいいつまでここにいるんだよ。早く帰ろうよ。ヒマだしさ。俺は忙しいん
だ。

門番 あのかな…。

道化、遊んでいる。

軍人 さつきからなにやってるんだ。

道化 練習。

軍人 練習。

道化 明日は姉ちゃんの誕生日だからね。パーティでこれ、見せてやるんだ。

軍人 パーティ。

軍人、門番を見る。

…。

道化 そうさ。俺たち、もうすぐ家に帰るんだ。ケーキを買うんだ。

軍人 ケーキ。

道化 小さく切つてあるのじゃなくて、丸のまんまのでっかいヤツ。みんなで誕生日の
歌を歌つて、ろうそくを消すんだ。みんながワツて拍手して、それからおいしい
ものをいっぱい食べて…それから俺、これを見せてやるんだ。きつと姉ちゃん、
喜んでくれるよ。笑ってくれるよ。

門番 おい。

道化 さ、早く帰ろう。

門番 いいから、まずは仕事しろ。それが出来なきゃ、家にも帰れねえし、パーティも
出来ないぞ。

道化 そうなの？

門番 ああ、そうだ。

道化 分かった。俺、ちゃんとやるよ。

道化、見張りを始める。

軍人 おい。

道化 ん？

軍人 楽しみだな。誕生日パーティ。
道化 あんたも来る？ そしたら、宝物、見せてやってもいいよ。

道化、小さな袋を出す。

軍人 なんだ、それ？

道化 ダメだよ。まだ秘密。

軍人 そうか、じゃあ楽しみにしとくよ。

道化、遊び始める。

門番 すいません。

軍人 何がだ。

門番 いえ…。

軍人 困ったことがあったら、なんでも言え。小さな町だ。助け合っていかねえとな。
門番 ……。

軍人 俺たちはみんな、はみ出しものだからよ。

サイレン

軍人 ……！

門番 なんですか、この音…。

軍人、銃を持つ。

軍人 お前たち、初仕事だ。だれが来てもここを通すなよ。

門番 え…。

軍人 分かったな。

門番 は、はい！

軍人、去る。

門番 おい、いいか。誰もここを通すんじゃねえぞ。

道化 ああ。

門番 俺たちの能力が試されてると思え。

道化 ああ。

門番 ここをちゃんとやれば、夢が叶うかもしれねえんだからな。

道化 ああ。でも、夢ってなに？

門番 ……。

道化 なあ。

門番 ……すげえの。

道化 え。

門番 いいんだよ！俺たちは、誰も通さなきゃ、それでいいんだから。

道化 ああ、そうだね。

銃声。

門番 ……！！

間

女、駆け込んで来る。

女 軍人…いる？

二人、女を見つめる。

道化 姉ちゃん…？

S 7 回想・二人の家

女 ハッピーバースデー…トウ…ユ…。

女、優しく微笑む。

道化 誕生日、おめでとう。

女 ありがとう。

道化 ごめんね。大したお祝いも出来なくて…。

女 いいの。二人がいてくれれば。

道化 ありがとう。俺、もっと練習するよ。だからまた、三人でパーティーしようね。

女 ……。

道化 なあ、姉ちゃん…姉ちゃん…。

S 8 管理人室、及び、道化の部屋

管理人室。

管理人が門番と向き合っている。

管理人 姉ちゃん。

門番 ……。

管理人 彼は確かにそう言ったのか。百三十四号を見て。

門番 ああ。

管理人 似ていたんだ？

門番 ああ。

管理人 とてもよく？

門番 ああ、そうだよ。

管理人 お姉さんのような人に会って、彼はどんな様子だった？

門番 ……。

管理人 喜んだ？ 驚いた？ 感動した？ 涙した？ それとも…怖がった？

門番 喜んできた。…喜んでたんだ。まるで、本当の姉さんに会ったみたいに。

間

管理人 一つ、聞いてもいいかな。

門番 ああ。

管理人 お姉さんは？

間

門番 死んだ。

間

門番 自殺だ。

間

管理人 じゃあ、彼がああなったのは…。

門番 その日からだよ。

管理人 トラウマなんだね。なるほど、君が彼をここに連れて来た理由はそれか。

門番 ……。

管理人 なんだい？

門番 疑ってるのか。

管理人 ……。

門番 やっぱり疑ってるんだろ。兄ちゃんが殺したって。

管理人 ……。

門番 あんたが兄ちゃんを助ける気がないなら、俺はもう話さねえ。

管理人 勘違いしているね。私は話を聞くとは言ったが、助けるとは言っていない。私は事実を確認しているだけだ。その結果、無罪が証明されるかもしれない、それだけ

のことだよ。

門番 ……。
管理人 暴力に訴えたいなら、それでもいいよ。どうぞ。
門番 ……。
管理人 選ぶのは君だ。

間

管理人 君はどうだった。
門番 え…？
管理人 彼女に会って。

間

門番 ……うれしかったよ。
管理人 ……。
門番 本当に…良く似てたからな。

道化の部屋。
道化、遊び始める。

女 何してるの？
道化 練習。
女 練習？
道化 明日は姉ちゃんの誕生日だからね。パーティでこれ、見せてやるんだ。
女 ……へえ、そうなんだ。
道化 姉ちゃんも来る？

間

門番 姉ちゃん…。兄ちゃんは、彼女のことをたしかにそう呼びました。姉さんに似た
彼女のことを…。

サイレン

門番 それから、彼女はちよくちよくと俺たちの所に顔を出すようになりました。最初
は遠慮がちに、次の日は少し気楽に、その次の日は、もっと気楽に。その姿に、
俺は例えような不安を感じていました。

人殺し、というささやき声が聞こえてくる。
やがて、銃声。

軍人がやってくる。
その手には銃が握られている。

門番 軍人さん…。びっくりさせないでくださいよ。
軍人 何だ、ひとりか。
門番 はい。
軍人 あのお手玉ヤロウはどうした。
門番 あいつは…今日はちよつと体調を崩しまして。
軍人 なに？
門番 その分、僕やりますんで。すいません。
軍人 …困ったことあったら、なんでも言えよ。

軍人は、いつものように銃の手入れを始める。

門番 あの、
軍人 ん？
門番 さっそく相談なんですけど。
軍人 おう。
門番 実は女が…。
軍人 女。
門番 居座ってまして。
軍人 どこに。
門番 ここに。
軍人 ここ。
門番 あ、家にも。
軍人 家。
門番 サイレンの鳴った日、あったじゃないですか。あの日から、毎日来るんです。
軍人 女が…。
門番 どうしたらいいんでしょう。
軍人 毎日来る…。
軍人は少し考えて、

軍人 手は。
門番 え？
軍人 握ったか。
門番 ……？

軍人 ……。

門番 いえ、別に…。

軍人 そうか…。そこからか。

門番 ……。

軍人 いいか、男は度胸だ。思い切って行け。ただし、無理だったら潔くあきらめろ。

門番 引き際も、男の器量だ。

軍人 ……。

門番 いいなあ、女かあ。青春だなあ。

間

門番 軍人さん。

軍人 なんだ。

門番 違います。

軍人 ん？

門番は堰を切ったように、話し出す。

門番 そういうんじゃないんですよ。よくわかんない女がよくわかんないんですけど毎日

軍人 日家にいるんですよ。

門番 貴様、不純だぞ！

軍人 俺じゃないです。勝手に来るんですよ。

軍人 お前な、見ず知らずの女が毎日家にいるって、お前が連れ込んでる以外に何があ

門番 るんだよ。

軍人 えっと、つまり、俺じゃなくて…。

門番 じゃなくて？

間

軍人 あ。

門番 あ。

軍人 お前…。

門番 あの…。

軍人 あの野郎…。

門番 いや、ですから今日は僕がちゃんと働きますんで！ほんと、バッチリ、だれ一人として通しません、近づけません。ほんとに、はい。

軍人、銃を突きつける。

軍人 正直に言え。

門番 はい。

軍人 いい女か。

門番 は？

軍人 いい女か。答えろ！

門番 髪が短くて、色白で…あの、軍人さんも知ってると思います。あの日、軍人さんを探しにきましたから。

軍人 番号！

門番 百三十四号です！

間

軍人 それ…。

門番 はい。

軍人 俺の女だ。

間

門番 すぐ、連れてきます！

軍人 いいよ。

門番 でも！

軍人 そういうやつなんだよ。

門番 …え？

軍人 昔から。

道化の部屋。

道化と女、遊んでいる。

道化 姉ちゃんさ…。

女 ん？

道化 毎日いるね。

女 いけない？

道化 別にいいよ。でも、なんで？

女 楽しいから。

軍人 もう何年になるんだろうな。あいつはな、俺がここに連れてきたんだ。

門番 …軍人さんが？

軍人 お前らと一緒にだよ。いろいろあってよ、心が病んじまってたあいつの助けになればと思って連れてきた。

道化 誕生日のパーティ、やったことある？

女 …ない。

道化 一度も？

女 …一度も。そんな家じゃなかったから。
変なの。

軍人 別にだれのせいってわけじゃねえんだよ。でもな、一度できた心の傷ってのは、
道化 なかなか消えねえもんでな。誰かにすがっちゃう癖は、どこに行っても抜けねえ
もんだ。

道化 じゃ、パーティって、どんなのか知ってる？
女 そうね…。友だちがたくさんいて、みんなで楽しく遊んで…いろんなこと話して
…。

間

女 みんなが笑ってる。

道化 正解！

女 ……。

道化 そうだよ。パーティにはね、たくさんの人が来るんだよ。友だちでも、近所の人
でも、だれでもいいんだ。みんな、プレゼントを持って来てくれるんだよ。おい
しいものがたくさんあって、みんなが出し物とかやってくれたりしてね、その日
だけは、ちよっとくらいバカなことしても許してもらえるんだよ。

軍人 すまねえな。迷惑かけて。

門番 いえ。

間

門番 昔ね、一度だけやったことがあるんです。

軍人 ……？

門番 誕生日パーティ。

道化 その時は、三人だけだったけど。

門番 決して裕福とは言えない家庭でしたけど、その日だけはとても楽しかったから…
それだけが、兄ちゃんの心の中に残ってるんでしょうね。

道化 パーティっていうのはね、だれかがだれかを祝ってあげるからパーティなんだよ。
だれかを祝ってあげるなら、プレゼントはなくてもいい。

女 ごちそうは？

道化 なくてもいい。

女 じゃ、なにがあればいいの。

道化 お祝いしたいって思いがあればいいんだ。その思いがあれば、どこだってパー
ティはできるんだよ。

女 じゃ、明日はパーティができるね。

道化 もちろんさ。明日は、きっといい日だ。

間

門番
もうどこに行ってもダメなんです。なんとか生きていけるところを探そうとしたけれど、どこにもなかったんです。どこに行ってもだれに頼んでもどうにもならなかったんです。「大変ね」「苦労したでしょう」みんなが言うんです。同情しきった顔で。だけど次に続く言葉は決まっています。

声
でもね。
門番
でもね、でもね…いつだってその言葉の繰り返しです。でもこれって、俺が悪いんですかね。全部俺のせいなんですかね。

軍人
……。
門番
兄ちゃんは、毎日同じ日を生きています。姉さんの誕生日の、一日前を。明日は誕生日だ。明日はパーティをするんだ。毎日毎日そう言い続けて、来るはずのない明日を待ち続けています。たとえ今日がどんなに辛くても、どんなに悲しい日だったとしても、明日こそはいい日だって、そう信じて…。姉ちゃんが死んだあの日から…兄ちゃんの人生は止まっています。なんでなのでしょうね。なんでここまで来て、姉ちゃんに会わなきゃならないんですかね。神様ってのがあるとしたら、あんまり残酷なんじゃないですかね。

軍人
……。
門番
でも、それもきつと、ここに連れて来た俺のせいなんです。

間

軍人
…ご苦労さん。
門番
……。
軍人
ありがとな。話してくれて。

S 1 0 管理人室

管理人と門番が向き合っている。

管理人
疲れたかな。
門番
いえ。

管理人
お茶でも入れようか。ケーキがあるんだ。この町一番のパーティシエが焼いたスペシャリテだね…。

門番
あの。
管理人
なんだい？

門番
ケーキの話はやめてくれませんか。
管理人
それもそうだね。失礼。

門番
……。

管理人、ファイルを出す。

管理人 ここに君の勤務状況についての報告書がある。
門番 報告書？

管理人 みんながきちんと働いているかどうかは、逐一チェックされているんだよ。ここは、そういう町だからね。

門番 ……。
管理人 これによると君の評価は実にいい。勤務態度も真面目だし、私生活も実に模範的だ。そして、善悪の判断がきちんとついて、それを勇敢に実行できる。

門番 ……。
管理人 最初の日にもらったスケジュール、実践してみたそうだね。
門番 ああ。
管理人 どうだった。

門番 別に。
管理人 ……。
門番 楽だよ。やることが決まってて、なにをするか考えなくていい。それに…。

管理人 それに？
門番 みんなやってるから。
管理人 その通り。やはり君は優秀だね。

門番 ……。
管理人 みんなから褒められたらう。
門番 ああ。

管理人 うれしかった？
門番 ああ。
管理人 この町が好きになった。

門番 ……。
管理人 でも、お兄さんは変わらなかった。
門番 ……。

管理人 それが問題だった。君の素晴らしいキャリアの中で、彼の存在だけが君の足かせだった。
門番 そういふ言い方はやめてくれ。俺は兄ちゃんを足かせだなんて思ったことは…！

管理人 一度もない。
門番 ……。
管理人 もちろん、そうだね。赤の他人ならともかく、家族が言うことじゃない。

問

管理人 ずっと疑問だったんだ。聞いてもいいかな。
門番 何だ。

管理人 君がこの町に来たのは、お兄さんのため？ それとも自分のため？

間

門番
それが事件と関係あるのか？
管理人
かもしれないね。人の心は、なにで動かされるか分からないから。

間

管理人
君がお兄さんのためにここに来たというなら、話は簡単だ。なるほど、お兄さんは外の世界では生きにくいだろう。でもここでなら、お兄さんさえ大人しくしていれば、受け入れてもらえる。生きていける。たとえお兄さん一人でも。

門番
……！

管理人、ハッと気づいたように、門番を振り返る。

管理人
お兄さん一人でも。

門番
……。

管理人
そのつもりだった？

門番
……。

管理人
置いて行く気だったのかな？お兄さんを……ここに。

門番
違う。

管理人
君はお兄さんをおいて、逃げ出すためにここにきた。

門番
違う。

管理人
そうか、君はお兄さんをここに捨てに来たんだ。

門番
違うって言うてるだろう。勝手に決めつけるな。

管理人
それじゃあ、君がここに逃げ込んだのかい？

間

管理人
優秀な人材である君が。

門番
あんた……何が言いたいんだ？

管理人
別に。僕は、真実を知りたいだけだ。

サイレン

門番
よく鳴るな。

管理人
お兄さんが来てから、めっきり増えてね。

門番
……。

管理人
僕らも困ってるんだ。

サイレンは続いている。

管理人、去る。

椅子に、軍人の忘れていった銃がある。

門番、何気なく銃を見る。

門番
これ…実弾…。

S 1 1
一週間前・正門

軍人と女、入ってくる。

女
ちょっと、離してよ！

軍人
いいから話を聞け。

門番
軍人さん…。

短い間

女
…後にしてって言うてるの。私、約束があるんだから。

軍人
もうあのお手玉ヤロウには会うんじゃない。

女
……。

軍人
お前はあいつを…傷つけるだけだ。それはお前だって分かってるだろう。

女
別に何もしない。ただ、会うだけよ。

軍人
それがダメだって言うてるんだ。

女、行こうとする。

軍人、女の腕をつかんで引き止める。

女
離して……だったら、私、ここを出ていく。あの人といっしょにここを出て行く。

門番
それでいいんですよ。

女
やめてください。姉ちゃんはまだもういないんです。家もない。もう帰るところなんかないんです。

軍人
分かってるわよ。

女
お前だってそうだろう。もうここしかないんだ。あいつのためを思うなら、余計なことは考えるな。

なだめようとした軍人の手を、女は振り払う。

女
そんなにやめさせたいなら、私を殺せば？

軍人
……！

門番
おい、なに言ってんだ。

軍人
…何の話だ。

女 殺してるんでしょ。それ以外に、何に使うの、その銃。

軍人 ……。

女 もう嫌なのよ。あんたみたいになりたくないの。だから私、あの人とここを出て行く。

軍人 ……。

女 あの人といっしょに家に帰って、パーティをやって、二人で生きてくの。…じゃあね。

軍人 いい加減にしろ！

軍人、女を殴る。

門番 ちょっと、やめてください！

道化、出てくる。

道化 姉ちゃん…。

門番 ……！

軍人 都合のいい相手を見つけちゃ、逃げ出して、それでいいことが一度でもあったか。なんでお前は分からねえんだ。

門番 もうやめてください！

門番、軍人を押さえる。

道化、呆然と女を見つめている。

道化 …やめてよ…姉ちゃんになにすんだ…。

軍人が女に近づこうとすると、道化はそれをかばうように立ちふさがる。

軍人 どけ。

道化 …姉ちゃんは悪くない…悪いのは俺なんだ…俺なんだ…。

軍人 そいつを連れて帰るだけだ。いいからどけ！

軍人、道化を無理矢理どかさうとする。

道化、はじかれたように声を荒げる。

道化 いやだ！姉ちゃんに手を出すな。俺は姉ちゃんを守るんだ。姉ちゃんを守るんだ。姉ちゃんを守るんだ。

道化、軍人を突き飛ばす。

道化の目の前に銃がある。

軍人 …おい、やめろ…そいつに触るな！

道化、銃を拾う。

道化 …俺もこんなとこ嫌だよ。大っ嫌いだよ、こんなとこ。なあ、早く帰ろうよ。

門番 兄ちゃん、ダメだ。

道化 お前がイヤなら、俺は一人でもここを出てくよ。そうだ、姉ちゃん、いっしょに帰ろう。俺だってバカじゃないんだ。あいつがいなくなったら大丈夫なんだ。姉ちゃんと一緒にここを出て、家に帰るんだ。あいつがいなくなったらやっていけるさ。

門番 お前一人で…？

道化 そうだ。俺は一人でやっていけるさ。

門番

バカやろう。お前、なんにも分かってねえくせに、エラそうな言うんじゃねえよ。出来ねえだろ、お前は。何にも。何一つ。だから俺が…俺がこんなに…畜生！

門番、道化を殴る。

軍人 おい、もうやめろ！

女 やめて！

道化 俺は家に帰るんだ。帰るんだ。帰るんだ！

門番 ふざけるな！

銃声

銃弾は、あらぬ方へ飛んでいく。

間

全員、惚けたようにへたり込む。

管理人

やめ！

管理人、来る。

管理人

…なに、これ？

管理人、全員を見回す。

管理人

…暴力？ ああ…！

管理人、倒れる。

管理人　暴力だ。これは暴力だね。だれ？　だれなの？　暴力を振るったのは？　君？　君？
それとも君？　言ったよね？　僕、前に言ったよね。暴力は嫌いだって。考えただけ
で貧血起きちゃうよって、僕言ったよね。

門番　あの…。

管理人　お黙り！…百三十三号。

軍人　はい。

管理人　これ、どういうこと？

軍人　…。

管理人　こういうことが起こらないようにするのが、君の仕事じゃないの？　それがこれ、
どういうことなの。なに？　なにが原因？

軍人　これは、自分が…。

管理人　君！？　よりによって君なの？　え、暴力を止めるのが仕事の君が、自ら暴力を振
るうなんて、これ、いったいどういうこと？

軍人　…。

管理人　信じられない。信じられないよ、私は。

管理人、軍人を睨みつける。

管理人　出てっくれ。

軍人　…！！

管理人　出て行っってくれ。この町の秩序を乱すような人は、この町にはいらなからね。

軍人　さあ、出て行っってくれ。今すぐ出て行っってくれ！

軍人　…。

門番　そんな…ちょっと待っってください。

管理人　聞こえない。

門番　違うんです。これにはいろいろと訳がありまして、

管理人　聞こえない。

門番　いきなり出て行けだなんて、そんなこと…！

管理人　聞こえない、聞こえない、聞こえないよ、私は。だって彼はこれまでずっといつ
しよにやって来た仲間だよ。その彼がこんな問題を起こすなんて…。私はもうだ
れも信じられないよ。

軍人　ですから、自分は…。

管理人　さあ、出て行くんだ、今すぐに！

門番　軍人さんじゃないんです！

問

管理人　…何だって？

門番　こいつを殴ったのは俺です。軍人さんは関係ありません。

軍人　おい……！

管理人　…君が。

門番　はい。

管理人　お兄さんを。

門番　はい。

管理人　ああっ……！

管理人、倒れる。

管理人　いったいどうしたことだろうね。よりによって優秀な君がこんなことをするなんて。これまで一度として、ルールを破ったことはないじゃないか。僕は君を信じていたんだよ。

門番　……。

管理人　なるほど、やむを得ない事情があった、そういうことだね。

門番　え……？

管理人　そうだろう？ やむを得ない事情があった。それで思わずお兄さんに暴力を振るってしまった。そうだね？

門番　…はい。

管理人　そういうことなら、僕も鬼じゃないからね。処分を考え直すよ。でも本当にそんなのかな、みんな？

問

管理人　みんなの賛同が得られなければ、僕は彼を町から追放しなくてはならない。彼にはやむを得ない事情があった。本当にそうなのかな、みんな。

軍人　…はい、そうです。

女　……。

管理人　そうか。すまなかったね、取り乱して。

管理人は、極めて優しく、

管理人　で、だれが悪いんだい？

門番　え……？

管理人　だって、やむを得ない事情があったんだろう？ じゃ、だれが悪い子がいるはずだ。だれだい、それは？ 君にやりたくもない暴力を振るわせたのは。

門番　……。

管理人　慎重に答えたまえ。君の答え一つで、みんなの運命が決まってしまうんだからね。

…わかるね、この意味？ だれだい、悪い子は？

間
やがて門番は、道化を指差す。

門番
…こいつです。

女
……！

門番
こいつが、あまりにも仕事をしないので、ついカツとなってしまいました。反省
しています。

女
ちよっと……！

反論しそうになるのを、軍人が制止する。

軍人
よせ。

女
でも……！

管理人は聞こえなかったように、

管理人
そうか。

門番
……。

管理人
彼じゃあ、責めるわけにはいかないな。その通りかな、みんな？

間

軍人
はい。

間

女
…そうです。

間

管理人
そうか。だったら仕方がないな。

管理人、道化の肩に手をかける。

管理人
まだこの町には慣れないようだね。大丈夫だよ。心配なくて。ちゃんとルール
を守って生活していれば、すぐによくわかるさ。

道化
……。

管理人
（門番に）とても勇氣ある発言だったね。お兄さんの罪を認めるのは、とても辛
いことだろう。でも、よくやってくれた。君は彼らを守ったし、町の秩序も保た
れた。今日、君は大事な道徳を学んだんだ。それを忘れないように。

番 …はい。

管理人 優秀な君には、もう少し大事な仕事をやらせてもらった方が良さそうだ。そうだ。彼といっしょに、町の見回りをしてもらおうかな。君なら、なにがやっていていいこととで、なにが悪いことか、きちんと分かるだろう。門番の仕事は、お兄さんにやってもらいなさい。

門番 ……。

管理人 どうかな。

門番 …ありがとうございます。

管理人 百三十三号。

軍人 はい。

管理人 彼の面倒を頼むよ。

軍人 分かりました。

管理人 さあ、帰宅推奨時間はもうとっくに過ぎてている。早く家に帰りたまえ。

管理人、去る。

女 ……。

女、道化を見つめている。

軍人、女を促す。

軍人 じゃあ、明日な。

門番 はい。

軍人と女、去る。

間

道化 なあ…。

門番、道化を殴る。

S 1 2 数日前・正門

道化、歌っている。

管理人

この町では、毎日決まった生活をするのです。定められたルールに従って。そのルールに従っている限り、この町での生活はとても快適です。だって、快適に暮らせるように「できて」いますから。だからルールを守るとはとても大切なことなのです。難しいことを考える暇はありません。私たちは生きていかなければ

ならないんです。それはそれだけで、とても忙しいことなんです。

門番は道化を、軍人は女を見ている。

門番 これでもいいんだよ。

軍人 これでもいいんだ。

門番 これが幸せなんだよ。

軍人 これが幸せなんだ。

門番 笑えよ。

軍人 笑ったらどうだ。

門番 笑えよ。

軍人 もう笑っていいんだ。

門番 俺たちは幸せになれたんだから。

道化、歌っている。

住人1 いい子でいること。

住人2 仲良くすること。

住人3 決められたルールを守ること。

住人4 きちんと仕事をすること。

住人5 人の言うことを聞くこと。

住人たち

朝起きたら顔を洗って、歯を磨いて、ちゃんと朝食をとりましょう。笑顔で家を出て、大きな声で挨拶をしましょう。周りの人とはいつも笑顔で仲良く、些細なことでも怒ってはいけません。一日三食きちんとして、夜は早く寝ましょう。そうすれば、あなたは幸せになれます。みんな、幸せになれます。この世はとても、素晴らしいものになります。

管理人 大事なことは…何も考えないこと。

管理人、道化を見る。

管理人 この町は、樂園と呼ばれています。

道化、歌わなくなる。

S 1 3 二日前・管理人室

管理人 お兄さん、ずいぶん町に馴染んだようだね。

門番 はい。…たぶん。

管理人 たぶん。

門番 最近、会ってないんです。

管理人 会ってない。

門番 大事な仕事がありますから。

管理人 そうだね、その通り。君は実に良くやっているよ。それで今日は、君に一つの提案があるんだ。

門番 提案？

管理人 君の、夢を叶えたい。

門番 ……！！

管理人 なんでもいい。君はこの町で、なりたいたいものになれる。でも、今すぐじゃない。

君が、この町を本当に大切に思ってくれた時に、だよ。分かるかな、この意味。

門番 それは…。

管理人、銃を渡す。

管理人 これは、僕が信頼した人間にしか預けていないものだ。とても危ないものだから

ね。

門番 ……。

管理人 君がこれを持って、この町への忠誠を尽くしてくれた時、僕は君の夢を叶えよう。

手段は問わないよ。自分で考え、自分で決めたまえ。

門番 ……。

管理人 分かったかな？

門番、銃を受け取る。

門番 …ありがとうございます。

S 1 4 一日前・正門

道化、立ち尽くしている。

女、来る。

手にボールを持っている。

女 こんにちは。

間

道化 ……こんにちは。

女、ボールを差し出す。

女 ……これ…。

女 道化

……。
返しに来たの。

間

女 道化

いらないよ。

女 道化

どうして。

女 道化

もう、遊んじやいけないんだ。

女 道化

じゃあパーティは？もうやらないの？

女 道化

うん。

女 道化

そう…。

女 道化

……。

女 道化

じゃあ、私を持っててもいい？

女 道化

怒られるよ。

女 道化

でも。

女 道化

捨てちゃいなよ。

女 道化

……。

女 道化

そうしたら、だれも怒られなくてすむよ。

女 道化

…そうね。

間

女 道化

仕事は楽しい？

女 道化

どうして聞くの？

女 道化

他に、なにを話していいか分からないから。

女 道化

……。

女 道化

ごめん。きっと私と会ってるの見つかったら、怒られるよね。

女 道化

……。

女 道化

…それじゃ。

女、去ろうとする。

女 道化

楽しくないよ。

女 道化

……。

女 道化

何にも。

女 道化

……。

女 道化

だって、ちゃんとしてなきゃいけないんだ。ずっと。いい子でなきゃいけないんだ。ルールを守らなきゃいけないんだ。ちゃんと仕事してなきゃいけないんだ。

女 道化

それが…普通ってことなんだ。

女 道化

……。

道化 …ちくしょう。楽しくないよ、なんにも。

間

道化 こんな町なんか、来なきゃよかった。

間

道化 君は？

女 え？

道化 楽しい？

女 ……。

道化 この町にいて。

女 …分らない。

間

女 私はね、いつも檻の中で生きて来たの。怖い人たちに囲まれて…。言う通りにしなきゃいけない。逆らっちゃいけない。口答えしちゃいけない。よけいなことを考えちゃいけない。…期待通りにしなきゃいけない。だけどそんなある日、私のところに泥棒が来たの。

道化 泥棒？

女 そう。その人は、檻の中の私に手を差し伸べてくれた。私を外に連れ出してくれた。外の世界を見せてくれた。だけど……。

声 1 ……。

声 2 この責任は、だれが取ってくれるというんだ。

声 3 お前には失望させられた。

声 4 失望させられた。

声 4 出て行け！

女 そうして私はここに来た。壁に囲まれ、重たい扉に閉ざされたこの町に。自分を傷つける、すべてのものから逃れるために。

道化 ……。

女 最初はね、救われた。ここではどんな人も受け入れてくれるから。名前も捨てて、過去も捨てて、全く新しい人間になれた。気がついたときには、外のことなんか忘れて、この町にすっかり浸ってた。毎日が同じだけ幸せで、その同じ毎日が永遠に繰り返される、この楽園に。

道化 ……。

女 だってそれ以上望むものがある？ 生きていけるって、それだけで素晴らしいことだものね。

道化 ……。

女
ただ今とは分からない。ただ生きているだけじゃない。私はもっと生きたい。もっと生きているを感じたい。あの日、外に出た時みたい……!!

女、うなだれる。

道化
じゃあ、出ようよ。

女
え？

道化
ここから。

女
でも。

道化
出てっっちゃおうよ。楽しくないもん。もうめんどくさいこと全部投げ出してさ、出てっっちゃおうよ。こんなところ。

女
無理よ。

道化
できるよ。

女
無理よ。無理だったんだもの。何度やろうとしても。

道化
大丈夫だよ。

女
どうして。

道化
だって今日は、昨日とは違うもの。

女
……。

道化
だから昨日できなかったことでも、今日はできるんだ。

間

女
外に出ても、いいことなんかにもないかも。

道化
そうだね。

女
それでもいいの？

道化
うん。だって俺、思うんだ。明日は、きっといい日だって。

袋を出す。

女
なに、それ？

道化
宝物。

長い間

道化
行こう。

女
…行きましょう。

門番、出てくる。

管理人 君は二人を見つけた。

門番 ……。

管理人 そうだね。

門番 ……。

管理人 許可なく町を出ることは禁じられている。このまま二人が外に出たら、大変なことになるね。重大な違反行為だ。その責任は、当然君にも降りかかるだろう。町にはいられなくなるね。

門番 ……。

管理人 やっと見つけた居場所なのに。君が苦勞して見つけた居場所なのに。彼はそれをぶち壊そうとしている。

門番 ……なにしてる。

管理人 君は止めようとした。

門番 なにしてるんだ。

管理人 間違っていない。君の行動は、何一つ間違っていないよ。実に模範的だ。

女 違うの。違うのよ。

門番 ……バカやろう！

門番、道化を殴る。

女 やめて！

門番 お前、何でわかんねえんだよ。何でだよ、何でだ！

女 やめて、ねえ、やめて！

女、門番を引き離す。

女 私が言ったのよ。外に出たって。こんなとこ、もうイヤだって。

門番 うるせえ！

門番、女を突き飛ばし、道化をつかみあげる。

管理人 すばらしい！君は秩序を守ろうとしたんだね。

門番 そうだ、俺は守ろうとしたんだ。

管理人 この町の、大事なルールを。

門番 そうだ。俺はこの町の役に立ったんだ。

また殴る。

女 やめて！

門番 うるせえ！

突然、門番の動きが止まる。

管理人

それからどうしたんだい。

門番

もういいでしょう。

管理人

これからだよ。いよいよ事件の核心じゃないか。それから？ それからどうしたんだい？

門番

それから…。

管理人

そうだよ、それから？

門番、女に銃を向ける。

門番

俺はあいつに銃を向けました。

女

……！

門番 全部あいつのせいだったんです。あいつが兄ちゃんに近づかなきゃ、こんなことにならなかつたのに…。俺たちは、幸せに生きていけたのに…。

女

無理よ。

門番

……。

女

お兄さんは、この町じゃ幸せにはなれない。

門番

俺は自由になりたかった。

女

誰も幸せになれない。

門番

こんな生活から抜け出したかった。

女

楽園なんてどこにもないのよ。だから外に行くしかないの。

門番

こんな生活から抜け出して、自由になって、俺にはなりたくないものがあるんだ。夢があるんだ。叶えられずに死んでたまるか！

門番、撃とうとする。

道化

ダメだ！

門番

……！

道化

お願いだからやめてよ。明日は楽しい誕生日パーティーじゃないか。みんなで楽しくやろうよ、あの日みたいに。

門番は銃を構えたまま、

門番

…できないよ。

道化

え…。

門番

だって姉ちゃんはもう死んでんだ。

間

門番 パーティなんかないんだ。帰る家もない。姉さんもいない。姉さんはな…姉さんはとつくに死んでるんだよ。

道化 ……！

門番 しょうがなかったんだ。もう限界だったんだ。もうこれ以上、耐えられなかったんだよ。

道化 ウソだ。

門番 ウソじゃない。

道化 ウソだ。

門番 ウソじゃない。何度だって言ってやる。姉さんは死んだ。死んだ。死んだんだ！

道化 ウソだ！

道化、うなだれる。

女 ……。

門番 結局…これの繰り返しさ。兄ちゃんは、あの日から前には進めねえ。これでもあんたは、外へ出ろって言うのか。だったらよ、兄ちゃんに明日をくれ。来ない明日を、兄ちゃんに見せてやってくれ。できるのか。できねえだろ。できねえんだよ、だれにも。

女 ……。

門番 分かっているさ。楽園なんてどこにもねえことくらい。夢なんてねえ。素晴らしい明日なんて来るはずねえ。でも人間には今日が来て、明日が来る。その中で苦しみに溺れそうになりながら、必死に生きて行く。それしかできねえんだ。だったらさ、何も考えずに生きてく方が楽じゃねえか。

女 ……。

門番 だって、兄ちゃんをこうしちゃったのは、俺なんだから。俺が姉ちゃんを殺したんだ。

道化、歌い出す。

門番 お前はどうしても帰りたいんだな。あの家に…。姉ちゃんのとこに…。

門番、銃を握りしめる。

女 なにしてるの。

道化 歌ってるんだ。

女 何を。

道化 誕生日の歌。

門番 ……。

道化 姉ちゃんに歌ってあげたくて。

門番 ……。
道化 …俺、何かやろうかな。ほら、演し物がさ、何かあった方が楽しいだろ。

女、ボールを渡す。

女 はい。

道化 何。

女 ボール。

道化 ……。

女 投げてみて。やったことあるでしょ。

道化、ボールで遊びだす。

道化 姉ちゃん、きっと喜んでくれるね。

門番 …ああ。明日は、パーティだからな。

間

門番 ちくしょう…ちくしょう…。

間

女 パーティをしない？

門番 ……？

女 お姉さんの誕生日パーティ。お兄さんの、ずっと来なかった明日を、今、やりましょう。

門番 なんのために。

女 何って…楽しむためよ。

門番 ……。

女 パーティって、そういうものなんでしょ？

門番 ……。

女 今日を楽しまなきゃ、もっと楽しい明日は来ないものね。

門番、道化にボールを渡す。

道化、遊び始める。

女 私ね、本当は歌手になりなかつたんだ。小さな頃から、歌うのが好きだったから。

ただどダメだった。そんなこと、とても言えなかった。お父さんとお母さんに言われた通り、敷かれたレールを歩いていくだけの人生だったから…。

門番 ……。

女 あなたは、何かやりたいことがあるの？
門番 やりたいこと。
女 夢。なにかあるんでしょ。

門番はためらいながら、口を開く。

門番 ケーキ屋さん…。

女、笑う。

門番 言うな、分かっている。似合ねえのは十分、分かっている。恥ずかしくて、だれにも言ったことねえのによ。ちくしょう…。

…なんで？

……。

なんでなりたいてって思ったの？

…姉ちゃんが、喜んでくれたから。

お姉さん？

…ああ。

……。

優しい姉ちゃんだったんだ。親父とお袋がいなくなってから、たった一人で、俺たちの面倒を見てくれたんだ。

……。

ただどいつからかな…。姉ちゃんは、悪い姉ちゃんになった。悪い姉ちゃんの時
は、俺たちは黙って耐えるしかなかった。嵐がさつて、静かになって、いつもの
姉ちゃんが帰ってくると、俺たちは三人そろって泣いた。そんなとき、ケーキを
買って来たんだ。ちっちゃな、一個だけのケーキ。

間

女 大好きだったんだ。お姉さんのこと。

間

なんでだろな。悪い姉ちゃんさえどっかやっちまったら、優しい姉ちゃんが帰っ
てくると思ってたんだよ。そんなわけないのにな。なんでだろうな…。

間

道化 帰ろうよ、家。

門番 ……帰る？

道化 この町を出て、本当の家に。

門番 でも…。

女 そうね。

門番 ……。

女 たとえそこで、どんな言葉が聞こえてきても、いいじゃない。それでも今日は、昨日とは違うはず。そして明日がまた違うなら、いつか何もかもうまくいく日が来るわ。私たちが変えられるなら、人の言葉も変わるはずだから。

門番 ……。

女 だから、帰りましょう。

間

門番 そうだな。

間

門番 門を開けに行くぞ。

女 お願い。

門番、去る。

女 よかったね。帰れるよ、家に。今度こそパーティ、できるといいね。お姉さんのだけじゃなくて、自分のも、あの人だってできる。そうだよ、これからはもっとたくさん、パーティができるんだよ。その時はきつと、私も呼んでね。

サイレン。

住人たち、出てくる。

女 そうだ。私、あの人に言わなきゃ。今度こそ、外に出ていくって。ずっと閉じこもってきた見えない檻を飛び出して、私は新しい明日を生きていくって。驚くかな。怒られるかな。喜んでくれるかな。でもきつと…応援してくれるよね。ねえ、軍人。

銃声

住人たち、女を撃つ。

女、振り返る。

その中に軍人の姿がある。

女 軍人…。

門番 軍人さん…？

軍人 そうだ。

門番 あんたが殺したのか。

軍人 そうだ。

門番 なんで。そんなはずないよ。あんたが…あんたがそんな…。だってあんたは、彼女のことを誰よりも大事に思ってたじゃないか。

軍人 それが、仕事だ。

門番 ふざけんな。何の仕事だよ。

軍人 ……。

門番 俺はあんたのこと信じてたのに。あんただけは、あんただけはみんなとは違うつて…。そう思ってたのに…そのあんたが…なんだ。なんだだよ！

軍人 ……。

門番 答えろよ！

管理人 なぜ、そんなことになったんだい？

軍人 住民一同の総意です。

門番 ……。

管理人 ……。

門番 なんだって…？

軍人 住民たちは、この町を出て行こうとする彼女を許しませんでした。私は彼らの決定に従い、定められたルールに則って、彼女を処罰いたしました。

門番 ルール？…処罰？

軍人 この町では、人命よりルールが優先される。前例のある決定です。なんら問題はないと判断します。

間

管理人 そうか。

間

管理人 ならしかたないな。

間

管理人 結構だ、さがっていいよ。

軍人 はい。

軍人、去ろうとする。

門番 ……ちょっと待ってくれよ。

管理人 なんだい？

門番 いったいお前ら、なんの話をしてるんだ？

管理人 ……？

門番 おかしいだろ。なんで殺されなきゃなんないんだ？ あいつが何をした？ ただ外に出ようとしただけだ。その何がいけないんだ？

管理人 みんなに迷惑をかけないこと。これはこの町の最大にして唯一のルールだ。

門番 ただ町を出ようとしただけだ。

管理人 何が迷惑か、それは私や君に判断できることかな？

門番 ……。

管理人 みんなが決めること。そうだろう？

門番 ……。

管理人 だったら、みんなが決めたことに従おうよ。

門番 それで何人殺した。

管理人 さあ。

間

門番 兄ちゃんを返してくれ。

管理人 ……。

門番 兄ちゃんは殺してないんだ。もういいだろう。

管理人 それはもう問題じゃない。彼には、善良な市民だった女性を、犯罪に走らせた罪がある。いや、彼女だけじゃない。彼は、実に多くの市民を反逆的行動に走らせている。彼は扇動者だ。

門番 ……まさか。

管理人 彼にこのまま消えてもらっては困るんだ。罰を受けてもらわないと。

門番 あんた、暴力は嫌いだったんじゃないのか。

管理人 暴力と刑罰は違うよ。法に則った行為なら、それは許される。我々は許可されてるんだ。

門番 だれに。

管理人 この町を作った人たちに。

間

管理人 さて、検証が終わったところで、本題に入ろうか。

門番 本題。

管理人 君には二つの道がある。同じ扇動者として、兄弟仲良く刑罰を受けるか、彼を扇動者として断罪し、この町の英雄となるか。私としては、ぜひ君にはこの町で生きていってもらいたい。君は優秀だからね。

門番 ……。

管理人 簡単だよ。たった一言でいいんだから。

門番 兄ちゃんを犠牲になんかできるわけねえだろ。

管理人 よく考えておくといい。

門番 やらねえよ。

管理人 どうかな。

管理人、軍人を見る。

管理人 彼には、できたよ。

間

管理人 君は気づいたかな。この町には、たくさんの人が来るよ。でもね、ここを出て行く人はだれもない。迎えに来る人もだれもない。君たちはこの町を取り囲む壁に守られると同時に、隔離されているんだよ。だれもここから出ることは許されていない。ここは外の人々にとって、すぐそこにありながら、どこにもない町さ。ないことにされてるから、何をしてもいい。何が起こってもいい。我々は、許可されている。考えてもご覧よ。君たちは、外の世界からはじき出された人間たちばかりじゃないか。その君たちに、我々は家を与え、仕事を与え、生きて行くのに困らないだけの生活の保証を与えた。均等にだ。これはすごいことだよ。そのうえ君は、何を求めようというんだ。この町に足らないものが何かあるかな。みんなが仲良く暮らして行けば、ルールを守って暮らして行けば、みんな生きていけるじゃないか。何か足りないものがあるなら、教えてくれ。次の会議で話してみよう。

間

門番 あんた…外で何があっただ。

管理人 何もないよ。

門番 ……。

管理人 僕の人生には一点の曇りもない。常に模範的に生きてきた。君が今想像しているような、恨みや憎しみのようなものは何もないよ。ただ定められたルールだけが、僕の頭の中にはあるんだ。

門番 ……。

管理人 秩序を守れば、人は幸せになれるんだよ。

S 17 拘置所

道化、遊んでいる。

門番、見つめている。

道化 遅かったな。…どうしたんだ？

間

門番 兄ちゃん…ごめんな。

道化 ……？

門番 ごめんな…ごめんな…。

道化、袋を出す。

道化 はい。

門番 なんだよ。

道化 宝物。

門番 ……。

道化 俺たちの。

門番 俺たちの？

道化 落ち込んだ時は、これを見て元気を出すんだ。お前、そう言って渡してくれたら？
大事に持ってろって。

間

門番 俺が？

門番、袋を受け取って中身を見る。

女 トランプ？

道化 あの誕生日の日、お前と遊んだトランプだよ。楽しかったなあ。あの日は、俺、
負けちゃったけど、楽しみにしてるんだ。明日、お前と遊ぶのき。

女 二人で？

道化 他にだれとやるんだよ。

門番 そうだな。

間

門番 俺しかいねえもんな。

道化 そうさ。

間

門番 なあ…。

道化 ん？

門番 何やったんだっけ？

道化 え？

門番 トランプ。

道化 ババ抜き。

門番 負けたんだ。

道化 うん。

門番 何回くらい？

道化 さあ…いっぱい。

門番 勝ったのは？

道化 (首を振る)

門番 一回も？

道化 ああ。

門番 ババ抜きで？

道化 お前、ズルいんだ。ジョーカーのカードに傷がついてるから、すぐ分かるんだって。ずいぶんたってから言うんだもん。そりゃ勝てないよ。

門番 そりゃ、ズルいな。ズルいことばかりだな。

間

門番 帰ろうな。

道化 ん？

門番 家…。何があっても。

道化 ……。

門番 俺たちの家だもんな。

道化 ああ。

門番 明日から、なんでも好きなことができるぞ。

道化 ああ、俺たちは自由だ。どこへ行ってもいい。なにをしたっていい。俺たちには、無限の未来がある。誰も知らない広い世界で、だれも見なかったことのないものを見て、だれもやったことのないことをやるんだ。明日は、

門番 明日は、きつといい日だ。

S 1 9 裁判所

木槌の音

門番 私は今、ここで、皆さんにお話しなくてはならないことがあります。それはいま裁かれようとしている私の兄と、そしてその兄のために、罪を犯したとされる女

性についてです。

私と兄は、長い、長い旅をしてきました。この広い世界のきつとどこかに、私たちが暮らす家がある。新しいふるさとがある。それを信じて、旅をして、そしてここに辿り着きました。毎日が同じだけ幸せで、同じ毎日が続く町。そこは私には、理想郷のように思えました。

しかしここで暮らすうち、私の心は日に日に何かを失っていききました。すべてが満たされていて、なに一つ困るはずのないこの町で、私は大きな虚しさの中に放り込まれていきました。そして与えられた幸福だけを受け取ろうと、私は考えることをやめました。

彼女の罪とはいったいなんでしょう。彼女がいったいなにをしたというのでしょうか。ただ、望んだだけです。今日とは違う明日を。そして明日はいい日だとそう信じただけです。その何があなた方を恐れさせたのでしょうか。それはきつととてもぼんやりとしたもので、はっきりとした「今そこにある危機」ではないのでしょうか。これはやらなければいけないことだから。これはそう決まっていることだから。しょうがない。今この町の中心で耳を澄ませば、その言葉だけが、こだまのように響き渡っています。

だから私は皆さんに聞きたいのです。あなたたちの心はどこにあるのか。あなたたちの意思はどこにあるのか。人と違うということは、確かに誤解や争いを生むもので、そのことを私はだれよりも知っています。私は、許されない罪を背負ってここに来ましたから。その罪を、私は今ここで、告白しなくてはなりません。私は、人を殺しました。何よりもかけがえのない二つの存在を天秤にかけ、一方を守るため、他方を殺しました。その選択に、後悔しなかったことは一度としてありません。社会という名の大きな町からはじき出され、忌み嫌われることは、許されざる罪を負った私の当然の宿命であったことでしょう。

それでも。

私は、受け入れようと思います。その悲しみを、苦しみを、この胸を引き裂くすべての痛みを、私は受け入れたいと思います。なぜならその罪によって、私は、今、ここにあり、私たちの抱えるその痛みによって、私は生かされているからです。そのすべてが、同時に私のすべてだからです。

だから私は異議を唱えます。今、彼に科されている罪に対して。この町で為される全ての正義に対して。この地球上の全ての人が等しく幸福でありますようにという、その普遍の祈りに、今、私は、異議を唱えます。人がみな平等であることなど決してなく、人は時に家族であり、他人であり、友だちであり、敵であり、喜び、楽しむと同時に、怒り、悲しみ、憎みあう存在であります。だから人生は素晴らしいのです。私は今、敬意を持って、生まれつき私たちが抱える大きな違いを認め、受け入れることを私は宣言します。

私たちは、この町を出ていきます。

銃声

扉が開く。

道化 なあ。

門番 何だ。

道化 俺、知ってたよ。

門番 なにを。

道化 お前が、ずっと俺のこと守ってくれてたこと。

門番 ……。

道化 ごめんな、弱い兄ちゃんです。…ありがとな。

女、出てくる。

女 お帰りなさい。

道化 姉ちゃん…。

門番 いただきます。

幕